

「私には関係ない」「私は大丈夫」が早期発見を遅らせます

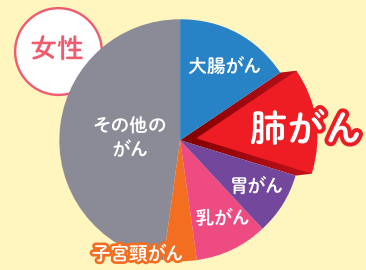
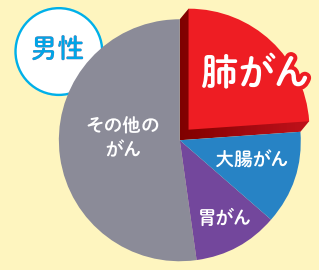
がんは、30年以上、日本人の死亡原因の1位を占めていますが
早期発見・早期治療をすれば、治る可能性も高くなってきています。



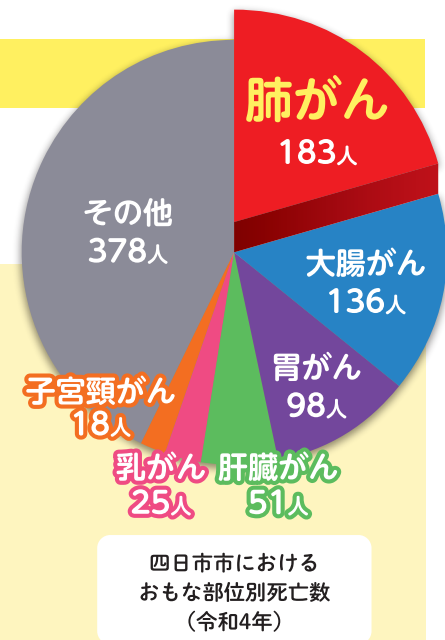
がんの部位別死亡数第1位は肺がんです。

肺がんで亡くなる人は、現在も増え続けています。
三重県におけるがん死亡数も、肺がんによるものが最多です。がんを防ぐには、がん検診を受けることが欠かせません。四日市市の肺がん検診受診率は、5.2%で、全国平均(6.0%)、県平均(6.8%)を下回っています。

肺がんによる死亡数は年間7万3千人!
がんによる死亡数は、**男性の第1位、女性の第2位**が、肺がんです



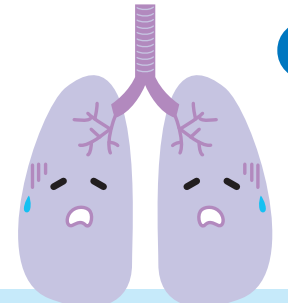
出典：日本対がん協会「がんの部位別統計」[主な部位別がん死亡数(2023年)]



四日市市におけるおもな部位別死亡数(令和4年)

出典：三重県衛生統計年報

治りにくい肺がんは早期発見がとても大事!



肺がんは、日本のがん死亡数の1位で、その数は年々増えています。

男性に多いがんで、これは世界的にみて高い男性の喫煙率に関係しています。喫煙者は非喫煙者と比べて男性で4~5倍、女性では2~3倍肺がんになりやすく、たばこを吸い始めた年齢が若く、吸う量が多いほどそのリスクが高くなります。
肺がんは、死亡数が罹患数に近いがんで、治りにくいがんと言えます。
早期発見がとても大事です。

肺がんについて

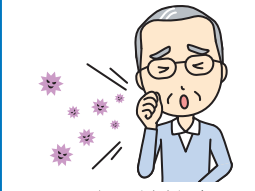
肺がんは、気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したものです。進行すると、がん細胞は周りの組織を壊しながら増殖し、血液やリンパ液の流れなどによって転移することもあります。

肺がんの症状

早期には症状が見られないことも多く、進行して初めて症状が出ることもあります。主な症状としては、咳や痰、血痰(痰に血が混じる)、胸の痛み、動いたときの息苦しさや動悸(どうき)、発熱などがあげられます。しかし、いずれも肺炎や気管支炎などの呼吸器の病気にも共通する症状で、「この症状があれば必ず肺がん」という症状はありません。また、このような症状がないまま進行し、医療機関での定期的な検診や、ほかの病気の検査で偶然見つかることもあります。

出典：がん情報サービス「肺がんについて」

65歳以上の人は、感染症法により年1回結核健診(胸部X線検査)を受けることが義務づけられています。



結核はまだ身近な病気です。
60代の7人にひとり、70代の3人にひとり、80代の2人にひとりが感染しているかもしれません。

胸部X線検査を受けることで、結核の早期発見もできます。(結核は、6~9ヶ月正しく服薬すると治ります。)

? 肺がん検診はどんな検査をするの?



胸部X線検査

胸のX線撮影を行う検査です。胸部全体を写すため、大きく息を吸い込んでしばらく止めて撮影します。



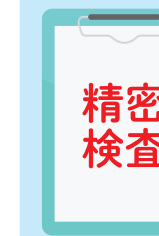
痰の検査

たばこをたくさん吸う人などに対して、喫煙との関連が大きいがんを見つけるために行う、痰に含まれる細胞の検査です。現在喫煙されている方だけではなく、過去に喫煙していた方も対象になります。



がんの疑いあり(要精検)と判定された場合には必ず精密検査を受けてください。

肺がんがあっても症状が出ないことがよくあります。「次回の検診まで待とう」「症状がないから大丈夫」などと自己判断せず、必ず精密検査を受けてください。



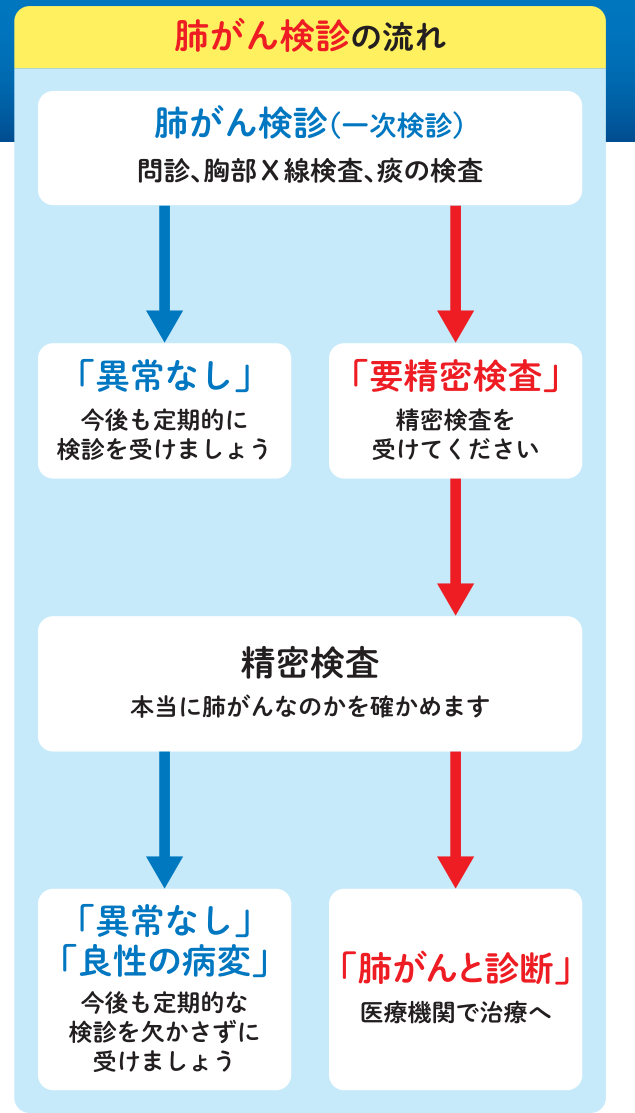
胸部CT検査

X線を使って、肺全体の断面図を撮影し詳しく調べます。

気管支鏡検査

気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して、病変が疑われた部分を直接観察します。

精密検査は病気の芽を見つけるチャンスです。病気の芽を早く見つけられれば、より効果的な治療を受けることができます。また、精密検査の結果、異常なしとわかることも多いため、むやみに怖がらずに検査を受けましょう。



肺がん検診

- 年1回、胸部X線検査を!
- 60歳以上で肺がんのリスクは増加! 定年後も続けて検診が必要です
- たばこを吸う人も、吸わない人も検診は必要です
- 早期発見・早期治療があなたの命を守ります

受動喫煙と肺がん

受動喫煙(周囲に流れるたばこの煙を吸うこと)も肺がんのリスクを2~3倍程度高めます。また、「紙巻きたばこ」よりも「加熱式たばこ」の方が健康被害が少ないという科学的根拠は現在ありません。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。